

## 事業名 阿蘇っ子わくわくグローバルキャンプ

- [主催] 国立阿蘇青少年交流の家  
[後援] 熊本県教育委員会 阿蘇市教育委員会  
[期日] 令和4年12月10日(土)～12月11日(日)【1泊2日】  
[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家  
[参加者] 22名(小学生10名、中学生12名)  
[講師] Amy Shiroma(熊本県観光交流課)  
Colin Maurer(産山村教育委員会)  
Anne Rose(阿蘇市教育委員会)  
Maria Beltran(西原村教育委員会)  
Yasha Hanoomansingh(熊本県立鹿本高等学校)  
[担当職員] 4名  
[ボランティア] 5名

## 1. 趣旨

多様な文化をもつ人々と交流することで、異文化理解の増進を図るとともに、自分の住んでいる地域や郷土熊本に誇りをもつことができるようにする。

多様な文化をもつ人々とジェスチャーや英語を使って交流し、互いが意思疎通を図ることの意義を感じることで、英語学習に興味を持ち、主体的に学び続ける意欲を高めることができるようにする。

## 2. 目標

- 参加者の8割が、異文化や郷土熊本への関心をもつ。
- 参加者の8割が、日本語の通じない相手とコミュニケーションをとることの大切さを感じる。
- 参加者の8割が、英語学習へ関心をもつ。

## 3. 事業展開

## (1) 行程

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
12月10日(土)					受付	入国審査	昼食	野外調理(ピザ)				入浴	異文化交流	入所オリエンテーション	就寝準備	消灯
12月11日(日)		起床	朝の準備 朝食	部屋点検	チャレンジゲーム		昼食	出国審査	解散							

## (2) 実際の活動



【入国検査（1日目）】



【買い物ゲーム（1日目）】



【薪割り（1日目）】



【異文化交流①（1日目）】



【異文化交流②（1日目）】



【チャレンジゲーム（2日目）】



【感想交流（2日目）】



【出国検査（2日目）】

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

- 「英語教育日本一」を目指す熊本県と連携することで、県主催のイングリッシュキャンプを予め視察することができたほか、A L Tの派遣においても各教育委員会を通じて協力いただくことができた。
- 参加者からは、「もっと英語を学びたくなった」「いつか外国に留学したくなった」「外国語の勉強をもっと楽しみたい」といったアンケートがあり、外国語や異文化への興味関心等の外向き志向が高まったことが伺えた。

### (2) 課題

- 当初、「参加者の8割が、異文化や郷土熊本への関心をもつ」ことを目標としていたが、実際には、7割強にとどまった。A L Tによる異文化交流では、多くの参加者が関心をもつことができたが、郷土熊本への関心をもたせるプログラムの工夫や改善の必要がある。
- A L Tやボランティアスタッフ、職員といった全メンバーでの打合せが当日にしか実施できなかった。事前に、事業目的とそのためのプログラム内容等について共通理解する機会を設ける必要がある。
- 特に、プログラム内容については、A L Tからのアドバイス等をももらうことで、より充実した内容となる可能性がある。